

令和 7 年

壱岐市議会定例会 9 月会議

行政報告

壱岐市

目 次

1. はじめに	1
（1）長崎県への要望活動	2
（2）壱岐新時代を創る対話会の開催	4
（3）航路の維持・確保	5
（4）令和7年国勢調査の実施	6
（5）全国離島交流中学生野球大会の開催	6
2. 交流人口の拡大	
（1）観光施策の推進	7
（2）国際交流員の招致	8
（3）神々の島壱岐ウルトラマラソンの開催	9
（4）ながさきピース文化祭2025壱岐市大会の開催	10
3. 産業の振興	
（1）農業の振興	11
（2）水産業の振興	13
4. 市民生活の維持	
（1）認定こども園の整備	13
5. 教育の推進	
（1）幼稚園の統合	14
（2）こどもたちの活躍	15
6. 安全・安心なまちづくり	
（1）消防・救急の現状	16
7. 議案説明	
（1）補正予算	17
（2）その他の議案	17
8. おわりに	18

行 政 報 告

令和 7 年壱岐市議会定例会 9 月会議

1. はじめに

本日ここに、令和 7 年壱岐市議会定例会 9 月会議の開催にあたり、6 月会議以降、本日までの市政の重要事項及び今回補正予算に計上した主な内容等についてご報告申し上げます。

はじめに、停滞する前線の影響により、8 月 9 日未明から 12 日明け方にかけて、大気の状態が不安定となり、県内各地において記録的な大雨となりました。

本市においては、市民皆様の安全を確保するため、9 日午後 1 時に壱岐市災害警戒本部を設置し、避難所等の対応について協議を行い、警報発令前の午後 4 時に警戒レベル 3「高齢者等避難」を発令し、市内各町 1 か所ずつ計 4 か所の避難所を開設しました。避難者数は、11 日の午前 11 時 20 分の閉鎖までに最大で 9 世帯、17 名の方が避難されたところです。

その後、10 日午前 1 時 53 分に長崎地方気象台が土砂災害警戒情報を発表したため、午前 2 時に壱岐市災害警戒本部を壱岐市災害対策本部に切り替え、夜が明けて周囲が明るくなった午前 6 時 30 分に警戒レベル 4「避難指示」を発令し、防災告知放送等で土砂災害等に厳重に警戒するよう呼び掛けました。

今回の大雨では、県内の複数の地点で線状降水帯が相次いで発生し、期間も数日間に及んだため、県設置の幡鉾川観測所では連続雨量 471 mm を記録し、気象庁設置の石田観測地点では 24 時間降

水量が観測史上最大となる 354 mm を記録する大雨となりました。

市内の被害状況については、人的被害はなかったものの、8月末現在で道路災害 175 件、河川災害 9 件、農地及び農業施設災害 400 件、林地災害 60 件、漁港海岸施設 1 件が被災しております。被災された皆様並びに長時間に渡って不自由な思いをされた皆様に対し、心からお見舞い申し上げます。

現在、災害復旧に向けた諸準備を進めているところであり、今後、国・県による査定の実施が予定されておりますので、査定後は早急に関係事務手続きを進め、順次、復旧工事に着手してまいります。

今後も関係機関と十分連携を図り、防災対策及び災害対応に万全を期してまいりますので、市民皆様には早めの警戒や日頃の備え等、さらなる防災意識の向上に努めていただきますようお願いいたします。

なお、今回の大雨被害を受け、8月12日からふるさと納税の各サイトにおいて、緊急支援として返礼品なしの寄附の募集を開始したところ、8月末日までに約100万円の寄附をいただいております。皆様のご厚情に対し、衷心よりお礼を申し上げます。

（１）長崎県への要望活動

7月17日に長崎県並びに長崎県議会へ、壱岐市の単独要望を行いました。大石知事をはじめ幹部職員、そして県議会では外間議長にご対応いただいたところです。本市からは鵜瀬県議会議員並びに壱岐市議会を代表して赤木前副議長にもご同席いただき、14項目の要望書を提出いたしました。

本年度の要望のうち、重点要望項目として新規項目でもある「新しいまちづくりに必要な専門人材の支援」、「有人国境離島法の改正・延長に向けた支援」及び「UPZ圏外への放射線防護対策施設の整備」の3項目についてご説明いたしました。

大石知事からは「有人国境離島法は延長だけでなく、中身をしっかり充実させていくことが必要不可欠であり、国境離島地域の持続可能な発展のため、地方の地方である離島を多く有する長崎県として先頭に立ち、中央に対して改正・延長に向け、しっかりと取り組んでいく」旨のご回答をいただき、8月22日には、大石知事、外間県会議長、関係市町の首長が合同で、額賀衆議院議長、坂井内閣府特命担当大臣をはじめ関係国会議員、関係省庁に対して要望活動を行いました。

また、UPZ圏外への原子力災害対策拠点の新設に必要な財政支援については、「離島という特性を踏まえると国の補助金の交付対象区域は拡大すべきではあるものの、補助金は既存施設の活用が前提となっているため、県が本年度から実施している地震アセスメントの結果を踏まえ、島民が安全に避難できるような環境づくりに力を尽くしていくとともに、国に対しても離島の状況をしっかりと伝え、必要な支援・措置がなされるよう県として努力をしていきたい」とのご回答をいただいたところです。

その他の要望項目も本市にとって極めて重要な事項であり、引き続き協議を重ね、県との連携をより密にして、本市の振興発展に全力で取り組んでまいります。

（２）壱岐新時代を創る対話会の開催

本市では、急速に進行する人口減少及び地域経済の縮小といった構造的な課題に対し、次の時代に向けた新たな挑戦として、「壱岐新時代プロジェクト」に取り組んでおります。その取組の一環として、7月12日に壱岐新時代プロジェクト対話会を開催しました。当日は、高校生から社会人まで幅広い世代の計73名の方々に参加いただきました。

前半では高校生によるアイデア発表が行われ、「御幣づくり体験」、「海ごみから魚たちを助け出せ!」、「若い世代の人が空き家のことについて協力し住みたい街にする」、「イキ活」、「壱岐エテマルシェ2025に向けた取組」等、地域課題を自らの視点で捉えた創造性あふれる提案及び活動について、5チームによる発表がありました。なお、このうち「御幣づくり体験」につきましては、8月29日から30日にかけて、大阪・関西万博の会場にて高校生3名による来場者向けの体験実施を行ったところです。

続いて大人世代からの事例紹介として、「壱岐の歴史と歩むウォーカブルな街づくり」、「空き家活用を促進する互助の仕組みづくり」、「壱岐島の観光DX推進の取組」、「水産資源を活用した観光・地域活性化の取組」といった、実践的な地域づくりの取組事例が発表され、世代を超えた情報共有と知見の交流が図られました。

後半のグループ対話では、郷ノ浦・勝本・芦辺・石田の各町の重点プロジェクトについて、高校生と大人が同じグループで対話を行い、それぞれの地域の個性や特色、課題を活かしたまちづくりにつ

いて、互いの視点を尊重しながら、活発な意見交換が行われました。

今後も、このような対話会を年間通じて継続的に開催し、幅広い世代から多様なご意見やご提案をいただきながら、壱岐新時代プロジェクトの具体像をともに描いていくとともに、対話を通じて得られた提案や課題認識を政策化・事業化し、共創による持続可能な壱岐の実現に向けて積極的に取り組んでまいります。

（３）航路の維持・確保

ジェットfoil「ヴィーナス２」の更新につきましては、７月末に独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（ＪＲＴＴ）から、航路事業者である九州郵船に対し、共有船舶建造制度における融資の内定が出され、現在、建造契約締結のための最終確認が行われております。

建造契約の締結が遅れた理由につきましては、「ジェットfoilの更新事例が乏しく、九州郵船への融資において慎重な審査を行う必要があったこと、また、これまでのジェットfoilとは違うエンジンが採用されたことから、現行エンジンとの機能性能の比較及び安全性の確認に時間を要したため」と伺っております。

今回の建造契約締結の遅れにより、船価（税抜き）が当初の７８億６千万円から８０億８千万円に増額し、新船の納期も当初の令和１０年の上半期から令和１１年の上半期になる見込みであります。

現在の運航体制を維持し、持続的な航路運営を図るためには、ジェットfoilの更新は必要不可欠であり、今回の船価の上昇について、国・県並びに対馬市と協議を行い、船体価格の増額分につい

でも当初の負担割合により支援を行うこととし、今回所要の予算を計上しております。今後とも国・県、対馬市等と連携し、航路の維持・確保に努めてまいります。

（４）令和７年国勢調査の実施

本年度は５年に一度の国勢調査が実施されます。国勢調査は１０月１日を基準日として、我が国に住んでいる全ての人と世帯を対象とする国の最も重要な統計調査です。

国勢調査の結果は、国や地方公共団体が正確な統計に基づいて、公正で効率的な行政運営を行うために利用されるとともに、様々な統計を作成する上で欠くことのできない基礎データとしても利用されています。また、企業や各種団体における需要予測や経営管理等を行うための活用や、学術・研究機関における研究のための活用等、様々な分野で幅広く活用されています。

この重要な国勢調査について、正確な調査を実施するために、調査員や指導員として、多くの市民の方のご協力をいただいておりますことに対し、感謝申し上げます。

国勢調査では、回答者の利便性を高めるために、インターネットを利用した調査が、平成２７年より全国展開されています。本年はインターネットによる回答率５０％以上が目標とされていますので、市民の皆様におかれましても、スムーズな調査実施のため、インターネットでのご回答にご協力を賜りますようお願いいたします。

（５）全国離島交流中学生野球大会の開催

「国土交通大臣杯第１６回全国離島交流中学生野球大会」、通称

「離島甲子園」が、８月１８日から２２日にかけて、沖縄県宮古島で開催されました。今大会には、全国の離島から２４チームが参加し、本市からも選手１８名に、監督・コーチ・審判員を加えた合計２１名で結成された選抜チームが参加しました。

壱岐市選抜チームは、順調に勝ち進み、準決勝で今回優勝チームの「宮古島アララガマボーイズ」と対戦しました。善戦むなしく敗れはしましたが、はつらつとしたプレーで３位という好成績を残しました。

全国の離島の中学生が一堂に会した本大会に参加した壱岐市選抜チームの皆さんは、野球を通じて島と島の交流を図り、友情を育むとともに、粘り強さや強い心を持ち、島の活性化や社会で自立していく精神力を身に付けてくれたことと思います。この経験を活かし、自分の夢や目標に向かって、こどもたちが大きく成長することを期待しております。

２．交流人口の拡大

（１）観光施策の推進

本市における観光客数を推計する上で参考となる、九州郵船及びオリエンタルエアブリッジの４月から７月までの乗降客数は２０万５，２９９名で、対前年比１０２．２３％でありましたが、コロナ禍前の令和元年度と比較しますと７９．１５％にとどまっており、依然としてコロナ禍前の水準に戻り切れていない状況です。

こうした状況の中、本市では対馬市との連携による団体ツアー誘

致を目的とした「壱岐市・対馬市周遊ツアー送客支援事業」、長崎県との連携による本県離島への送客支援を図る「長崎しま旅促進事業」等、国内観光客誘致に即効性の高い施策に取り組んでおります。

また、福岡市の呼びかけにより、大阪・京都から西の自治体が連携し、欧米豪旅行者や高付加価値旅行者等をターゲットに、西日本・九州への広域的な誘客を図ることを目的に設立された「西のゴールデンルート実行委員会」に昨年１０月から加盟し、取組を進めております。

本委員会の取組の一つとして、８月２７日、大阪・関西万博会場において加盟自治体の首長が一堂に会し、西のゴールデンルートのブース出展オープニングイベントが実施され、私も出席し、本市のＰＲを行ってきたところです。今後も国内外の動向を的確に捉え、国内向け及びインバウンド推進の取組を引き続き進めてまいります。

（２）国際交流員の招致

市民皆様の国際感覚の醸成及び異文化との交流、並びに外国人観光客誘致に向けたインバウンド推進等を目的とし、８月４日付けで本市において５人目となる国際交流員として、中国出身の チュウ 曲 ジンヤオ 金堯さんに赴任いただきました。

今後、海外からの訪問客の対応をはじめ、イベント等での通訳・翻訳、学校及び市民皆様を対象とした異文化理解を促進する出前講座の実施、外国人観光客の誘客に関する業務等、本市の国際交流及びインバウンド推進に向けた幅広い活動を行っていただきます。

（３）神々の島壱岐ウルトラマラソンの開催

「神々の島壱岐ウルトラマラソン２０２５」の申込みは、７月１８日に受付を締め切り、北は北海道から南は沖縄までの４３都道府県から、また今回初めて海外からのエントリー４名を含む、１００Ｋｍ６１４名、５０Ｋｍ２６４名、計８７８名のエントリーをいただきました。昨年度より、さらに５１名多いエントリー数で、過去最多となっております。

このことは、これまでの本大会における市民皆様のご協力や沿道での温かいご声援等の「おもてなし」による大会運営の成果であると考えております。

本年度も市全体で大会をさらに盛り上げるため、これまでの大会同様、小学生の皆さんには、参加選手への手紙と応援のぼりの製作をお願いし、最後の力を振り絞るランナーの励ましとなるよう、ゴールまで残り１０ｋｍ地点以降は、５００ｍごとにのぼりを設置いたします。また、中学生・高校生の皆さんには、給水所運営等に協力をいただき、選手への温かい激励を行っていただくようにしております。

そして、本大会にも多くのご協賛を賜り、特別協賛・プレミアムスポンサーとして株式会社ファウンテック様から１，０００万円、プラチナスポンサーとして九州郵船株式会社様から５００万円、一般協賛で株式会社なかはらグループ各社様から計１２０万円、他にも島内外の多くの企業様からご支援をいただいております、改めまして感謝を申し上げます。

本大会は、壱岐全島を舞台とした一大イベントであり、市民皆様をはじめ関係機関、団体皆様の引き続きのご理解、ご協力をお願いいたします。

なお、株式会社ファウンテック 万谷社長のご尽力により、新春の風物詩である東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）において、名物の５区山登りで区間新記録の活躍により、青山学院大学の２年連続８回目の総合優勝に貢献され、「若の神」の愛称で親しまれたわかばやし ひろき若林 宏樹 様を特別ゲストとしてお迎えすることになりました。若林様には前夜祭への参加に加え、ランナーとの触れ合いランにもご参加いただく予定であり、本大会の魅力がより高くなり、大いに盛り上がるものと期待しております。

（４）ながさきピース文化祭２０２５壱岐市大会の開催

全国的な文化の祭典「国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭（通称：ながさきピース文化祭２０２５）」が、９月１４日から１１月３０日までの約２か月半、長崎県全域で開催されます。

本市におきましても、壱岐市大会として様々な企画事業を行うこととしており、事業内容については広報紙、ケーブルテレビ及びチラシ等を通じて、市民皆様へお知らせしているところですが、改めて内容をご紹介します。

壱岐市大会の初日である９月１４日は、一支国博物館においてオープニングセレモニーを開催し、同時に壱岐市を代表する偉人「松永安左エ門 生誕１５０周年記念展」を行います。

９月２７日には、本市のメイン事業としてＴＢＳ系「プレバト！！」

の俳句コーナー等、テレビ・ラジオでおなじみの俳人^{なつ}夏井 いつき先生による「俳句を創る・まちを創る」と題した講演会を、壱岐の島ホールにて開催します。

また、9月28日には、同じく壱岐の島ホールにて「句会ライブ」を開催します。こちらも夏井先生の軽快なトークにより、会場とコミュニケーションを取りながら、来場された皆様への俳句レクチャーや作句指導のほか、先生が選ぶ優秀句の発表等、こどもから高齢者まで楽しめる内容となっています。

どちらも入場は無料ですが、整理券が必要となっており、8月18日から壱岐の島ホール事務所にて配布しております。なお、9月27日の講演会分の整理券は、規定枚数に達したため配布を終了しておりますが、9月28日の句会ライブ分はまだ配布しておりますので、お早めにお求めの上、多くの皆様にご来場いただきますようお願いいたします。

この他にも10月には「原の辻遺跡国特別史跡指定25周年記念展」、11月には「壱岐市総合文化祭」等、様々な事業を開催予定でありますので、「ながさきピース文化祭2025壱岐市大会」の詳細な情報につきましては、壱岐市実行委員会事務局から広報紙等を通じて随時お知らせしてまいります。

3. 産業の振興

(1) 農業の振興

今年の九州北部地方は、過去最も早い梅雨明けとなり、その後の

高温と少雨により、農業用ダム及びため池の貯水量が低下する等、水不足による農作物への影響が心配されておりましたが、一方で8月9日から11日の大雨により、農地、農業用施設及び農作物等に甚大な被害が発生しております。

このような中、水稻については、畦畔の崩れ及び土砂流入により倒伏被害が一部発生しており、減収及び品質低下が懸念されております。また、紋枯れ病やいもち病に加え、カメムシ類の発生も危惧されており、引き続き適切な栽培管理が必要となっております。

葉たばこについては、3月定植後の霜害^{そうがい}により圃場によっては生育のバラツキがあったものの、5月から7月は日照時間に恵まれたこと、また病害の発生が例年より遅く少なかったことで、目標収量である250kgを大幅に超える280kgの反収が見込まれております。

肉用牛については、飼料・生産資材価格等の高止まりが長期化し、畜産経営を圧迫している状況が続いています。このような中、8月に開催された子牛市では、前回6月の平均価格と比較し、3万2千円高の66万5千円となっており、上昇傾向にあります。本市としましては、引き続き優良系統牛への更新及び増頭対策等、国及び県の各種施策を活用しながら支援してまいります。

また、11月に県南家畜市場で開催される「長崎県和牛共進会」に向け、壱岐地区代表牛選考会が9月18日に開催されます。この共進会を通じて、肉用牛農家の生産意欲と経営安定が図られることを期待しております。

（２）水産業の振興

４月から７月までの本市の漁獲量及び漁獲高を昨年同期と比較いたしますと、漁獲量は３１％増の約９１４トン、漁獲高は４７％増の約１２億８千万円と、ともに増加しております。これは５月下旬から大型クロマグロが２２８トン漁獲されたことによるものであります。

クロマグロは資源管理のため漁獲枠が設けられておりますが、本年度は資源回復により、大型魚の基礎配分が３３％増枠で配分されております。しかしながら、７月上旬の時点で漁獲枠のほぼ上限に達し、残る大型クロマグロを漁獲できなかったため、クロマグロが捕食する大量のイカ類等も釣れず、さらには漁具を切られる被害も発生しております。

本市の水産業を取り巻く環境は、漁獲の減少、魚価の低迷、生産コストの高止まり、漁業者の高齢化並びに後継者不足等、依然として厳しい状況が続いておりますので、今後も引き続き漁業者の皆様そして各漁協をはじめ関係機関と連携を図りながら、各種施策に積極的に取り組んでまいります。

４．市民生活の維持

（１）認定こども園の整備

勝本町における既存の公立保育所及び幼稚園の活用による認定こども園化については、市教育委員会及び長崎県こども未来課と協議を進めております。７月には県による現地確認を実施し、既存施設での認定こども園化について、概ね了承を得ている状況であり、令

和 9 年度の開設に向け、今後も各関係機関と協議・調整を進めてまいります。

なお、郷ノ浦町及び芦辺町においても、民間の参入を考慮しつつ、関係者皆様のご意見をお聞きしながら、認定こども園の開設に向け、引き続き検討を進めてまいります。

5. 教育の推進

(1) 幼稚園の統合

昨年度、市内 7 園で保護者説明会を開催し、統合に向けた方針を提案させていただき、保護者皆様からご理解とご協力をいただいたところであり、本年度も 8 月に保護者説明会を開催し、昨年の保護者説明会でいただいたご意見を参考に、幼稚園の現状説明と令和 8 年度から一部の幼稚園を統合していくことについて説明を行ったところです。

具体的には、勝本幼稚園と霞翠幼稚園、箱崎幼稚園と瀬戸幼稚園をそれぞれ統合することとしており、統合する園においては土曜日の預かり保育の実施や給食の提供等、保護者皆様のご意見、ご要望に可能な限り応える形で進めているところです。

なお、幼稚園への給食の提供については、勝本保育所で調理し、幼稚園へ搬入する計画としており、今回、給食提供のための保育所調理室の設備拡充並びに幼稚園備品整備に係る所要の予算を計上しておりますので、ご審議を賜りますようお願いいたします。今後の幼稚園の統合につきましては、保護者並びに関係される方々のご意

見とご要望をお聞きしながら進めてまいります。

（２）こどもたちの活躍

近年の小・中学生のスポーツにおける活躍はめざましく、各競技において九州大会や全国大会に出場しています。

7月26日に開催された「長崎県中学校総合体育大会相撲競技団体戦」で石田中学校が準優勝に輝き、8月に宮崎県で開催された「九州中学校体育大会」においてもベスト8の好成績を収めました。

また中学生男子ソフトボールでは、クラブチームの壱岐ブレイブスが8月2日から4日かけて福岡市で開催された「25回全日本中学生男子ソフトボール大会」長崎県代表として出場し、ベスト16と健闘しています。

さらに、8月16日から17日にかけて神奈川県で開催された「第16回全日本ビーチバレーボールU15選手権大会4人制」で、勝本中学校3年の おがわ けいご 小川 桂虎 さん、石田中学校3年の よこやま おうしろう 横山 桜士朗 さん、つつみ ひびき 堤 響紀 さん、えぐち そうま 江口 颯真 さんが長崎県代表チームとして活躍しており、中学生サッカーでは、壱岐サッカークラブが8月10日から11日にかけて開催された「第31回九州U-15フットサル選手権大会長崎県予選」において準優勝に輝いています。

また、8月15日から20日にかけて岡山県で開催された「全日本女子学童軟式野球大会」において、霞翠小学校6年の まつなが か こ 松永 佳子 さんが長崎県選抜選手に2年連続で選出され、全国大会へ出場しており、さらに8月1日に開催された「第47回交通安全こども自転

車長崎県大会」において、初山小学校の皆さんが昨年度に続き見事団体優勝、個人の部において ^{やまぐち きいち}山口 熙一 さんが優勝、^{はしかわ くう}橋川 來生 さんが準優勝、^{ひがし くうが}日檜 孔海蘭 さんが3位に輝き、8月6日に行われた全国大会においても、長崎県代表として団体の部、個人の部ともに健闘しています。

このように、本市のこどもたちの活躍を大変うれしく頼もしく思いますとともに、今後の壱岐市のこどもたちのさらなる活躍を期待しております。

6. 安全・安心なまちづくり

(1) 消防・救急の現状

熱中症については、8月末日までに30名の方を救急搬送しております。特に今年は梅雨明けが1951年の統計開始以降過去最も早くなっており、今後も残暑が厳しくなることが予想されます。市民皆様には、こまめな水分補給を行っていただき、室内においてもエアコンや扇風機等を有効に使用し、体調管理に十分注意されますようお願いいたします。

次に県内において、けがや急病で救急車を呼ぶか迷った際の電話相談窓口である「#7119」が、昨年8月から運用開始されております。本市の利用率は、他市と比べて低い状況にありますので、市民皆様には引き続き有効にご活用いただき、救急医の負担軽減及び救急車の適正利用にご協力くださいますようお願いいたします。

これから農繁期を迎えるにあたり、野焼き、しくり焼きによる火

災が毎年、発生しております。草木を焼却する場合は、必ず消防署に届出を行い、周囲の燃えやすい物と安全な距離を保ち、焼却中はその場を離れずに、確実に消火を確認いただく等、火の取扱いには十分注意していただきますようお願いいたします。

７．議案説明

次に議案関係についてご説明いたします。

（１）補正予算

本議会に提出した令和７年度補正予算の概要は、一般会計補正額△４，４３９万６千円、特別会計の補正総額４，８９１万６千円となり、本定例会に提出いたしました一般会計、特別会計の補正額の合計は４５２万円となります。

なお、現計予算と合算した本年度の一般会計予算は２５７億４３４万１千円で、特別会計については８０億１，０２８万４千円となっております。

（２）その他の議案

本日提出いたしました案件の概要は、令和６年度各出資法人の経営状況等に係る報告５件、令和６年度財政健全化判断比率等の報告１件、市道路線の認定に係る案件１件、契約の締結に係る案件１件、予算案件２件、令和６年度各会計決算認定８件となっております。

何とぞ慎重にご審議をいただき、適正なるご決定を賜りますようお願いいたします。

8. おわりに

以上をもちまして、6月会議以降の市政の重要事項及び政策等についてご報告いたしましたが、様々な行政課題に対し、今後も誠心誠意、全力で取り組んでまいりますので、議員各位並びに市民皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年9月4日

壱岐市長 篠 原 一 生